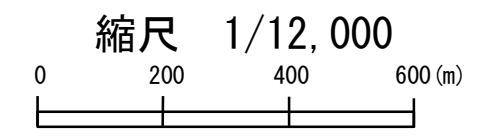
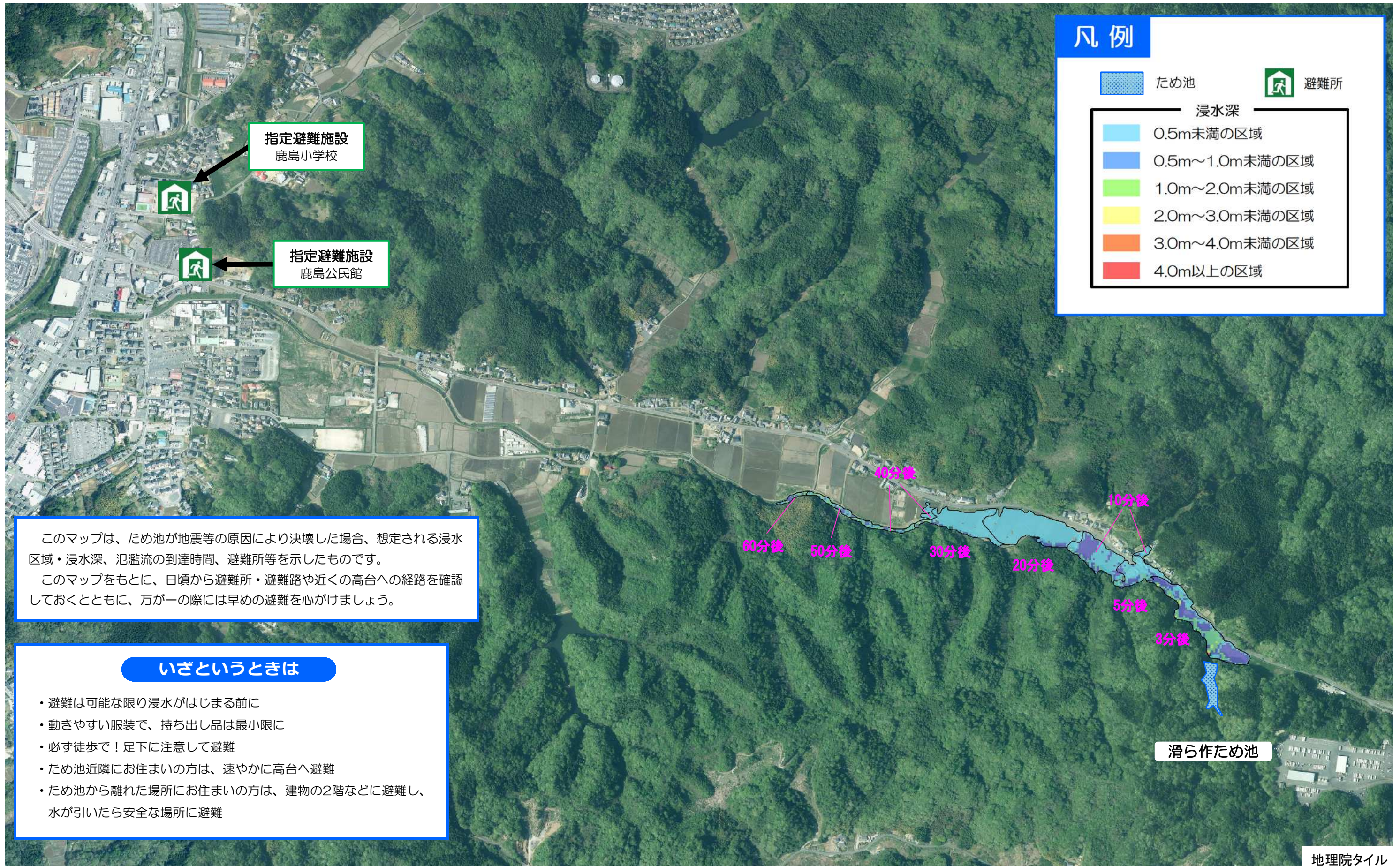


滑ら作ため池ハザードマップ

目につく場所に掲示して下さい



ため池ハザードマップの見方・使い方

■ハザードマップの作成の目的

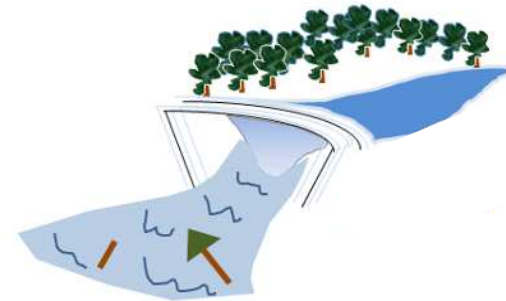
ため池ハザードマップには、地震等の原因によりため池が決壊した場合に想定される浸水区域・浸水深、氾濫流のシミュレーション結果を記載しました。

このマップをもとに、住民のみなさまに日頃からの避難所等を確認していただき、防災意識の向上につなげてください。

■ハザードマップの作成条件

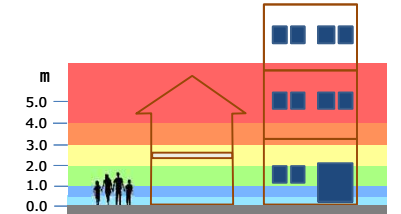
ため池が満水の状態で決壊し、貯水が全て下流に流れ出す状況を想定した浸水シミュレーションの結果を記載しました。

実際のため池の水位の状況、気象状況、決壊の状況によってはこのマップの浸水状況と異なる場合もあります。



■ハザードマップに載せる情報

① 場所ごとの浸水する深さ
場所ごとの浸水する深さを色分けして地図上に表示しました。



② 到達時間
ため池の水が到達するまでの時間を表示しました。

③ 避難場所
避難する場所を地図上に表示しました。なお、一刻も早い避難が必要な事態になったときは、指定された避難場所によらず、近くの高台へ避難してください。



④ いざというときの心構え
いざというときの避難に備えて、日常から心がけておく事柄を記載しました。

■そうってからでは遅い！早めの避難

日頃から備えておきたいこと



住んでいるところの避難所と避難路を確認しておこう。

家族で逃げ方などについて話し合っておこう。

非常持ち出し袋を用意しておこう。

TVやラジオの情報に気をつけ、正確な情報収集を行おう。

避難の呼びかけにはすみやかにしよう。

地図を見るうえでのポイント

- 地図の凡例を参考に、どこにどのような浸水が想定されているか確認しましょう（浸水想定区域では、水だけでなく、土砂や流木、地図上にある様々なものが押し流されてくる可能性があります。）
- 災害の状況によっては、避難所へ向かうことが危険な場合があるので注意しましょう。
- 地図を片手に自分の家から避難所まで歩き、実際の距離感や、災害時に危険そうな箇所（地震時に崩れそうなブロック塀、大雨時に溺れそうな深みのあるところ）や、逃げ込める高台などをあらかじめ確認しておきましょう。